

テーマ	子どもが意見を述べる場の提供
区市町村	三鷹市
児童館名	東多世代交流センター（ひがしじどうかん）
活動名	おしゃべりティータイム（多世代交流事業）
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・多世代交流 ・これからの児童館づくりについて意見交換
主な対象	小学生
活動の経緯 実践内容	<p>児童館と社会教育会館が一つになり改修工事を経てこの4月に多世代交流センターとしてリニューアルオープンをした。今後の事業展開について考える上で、子どもたちが本音で多世代交流センターについて話し合える場をつくれたらという発想をベースに、まずは調理と飲食で緩やかな交流の空間をつくり意見交換をおこなった。</p> <p>参加人数は、子ども19名（小1～中1／うち男子3名）、保護者5名 市民サポーター4名（20代女性2名、30代男性、60代女性） センター職員2名</p> <p>①講師である管理栄養士が火も包丁も使わず簡単・安全にできる「くるくるロールサンドイッチ」のつくりかたをレクチャー。子どもたちは器具を譲り合いながら丁寧に調理に取り組んでいた。講師から原料や栄養素の話があると真剣に耳を傾け、持参した筆記用具でホワイトボードのレシピを熱心に書き写す姿が印象的だった。また、試食しながらのおしゃべりタイムでは「家族にも作ってあげたい」という声も聞かれた。</p> <p>②作ったロールサンドを食べたあと、配布された付箋紙に子どもたちが施設への要望や開催してほしいイベントなどを自由に記入し、センター長のリードでひとりずつ前に出て発表した。「遊具を増やしてほしい」「バスケットボールとドッジボールの場所を分けてほしい」といった施設面での希望や提案もあれば「みんなで工作したい」「バレーボール大会がしたい」といった事業展開のヒントになるような具体案もあり、子どもたちの率直な意見をたくさん聞くことができた。</p>

<p>効果や課題</p>	<p><効果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども同士の交流はもちろん、おとなとの距離も縮まり、世代間での交流ができたことは大きな効果といえる。料理とおやつという素材が加わったことで終始穏やかで、集中して他人の発言を聞き、反応する様子が見られた。 ・まずかわいい付箋にそれぞれの考えを書いてもらったことで、発表がしやすくなったように感じた。人前で話すことが恥ずかしい子は、付箋を使って意見を述べたり、サポートの大人が代わりに読んだりする場面もあった。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの意見を施設管理や事業内容にどう活かすか、また、施設や事業の変化を「自分の意見が反映されている」と子ども自身が実感するためにはどんなアクションが必要か等、職員間で検討し実践する。
<p>活動写真</p>	

児童館のプロフィール

<p>児童館名</p>	<p>三鷹市東多世代交流センター（ひがしじどうかん）</p>
<p>運営主体</p>	<p>三鷹市</p>
<p>所在地・電話番号</p>	<p>三鷹市牟礼2-13-19</p>
<p>開館日・時間・休館日</p>	<p>休館日 年末年始・第4日曜日・法で定める休日</p>